「やりくり」授業が学ぶ力に対する意識に及ぼす影響

福田　仁
鳥取大学附属中学校　社会科
E-mail: fukutaht@tottori-u.ac.jp

FUKUTA Hitoshi(Tottori University Junior High School): **Influence of "YARIKURI" Classes on awareness of the ability to learn.**

要旨　－　社会科はよく暗記科目と言われることが多い。ただ単に知識を獲得するだけでなく，思考力・判断力・表現力を向上させるために様々な授業を行った。授業後に，社会科に対する意識や知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上に関する質問紙調査を行った。その結果，知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上において，「やりくり」授業が有効であることが示された。

キーワード　「やりくり」授業，学ぶ力，協同的探求学習

Abstract —　Social studies are often referred to as memorization subjects. In addition to simply acquiring knowledge, various classes were held to improve the ability to think, judge, and express. After the classes, we conducted a questionnaire survey regarding awareness of social studies and the establishment and improvement of knowledge, thinking ability, judgment ability, and expression ability. As a result, it was shown that the "YARIKURI" classes is effective in establishing and improving knowledge, thinking ability, judgment ability, and expression ability.

Key words — "YARIKURI" classes，the ability to learn，collaborative inquiry learning

1.　はじめに

ここ数年，急速に社会の状況が変化したり，何が正解か分からない状況でよりよい選択が求められていたりと，先の見通しが持ちにくい社会になってきている。習得した知識だけを活用し，1 つの正解を求めるだけでは，社会に生きる公民として不十分である。

平成 29 年に告示された中学校学習指導要領において，学校教育には，子供たちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくことや，様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められていると示されている。また，すべての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の 3 つの柱で再整理されている。3 つの柱に沿った資質・能力を育成するためには，生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからであると示されている。(文部科学省 2018)

つまり，習得した知識を活用し，社会的な見方・考え方を働かせ，他者と協働しながら課題を追究していくことで主体的・対話的で深い学びにつながると考える。

そこで，本研究の目的は，「やりくり」授業が学ぶ力に対する意識にどのような影響を与えているのかを明らかにすることである。

鳥取大学附属中学校の社会科として，学ぶ力を昨年度の学習に取り組む姿やアンケート結果などから，「思考力・判断力・表現力」，「自己調整力」とし，研究を進めている。

本校の第 3 学年の生徒を対象に 2022 年 4 月に**図1**のようなアンケートを行った。大半の生徒が世界や日本のできごとに関心を持っており，社会的な事象への高さがうかがえる。また，社会科を学ぶことに対する前向きな気持ちを持っている生徒が多く，グループ討議などの学習活動に意欲的に取り組む様子が見られる。

ただし，社会科は暗記科目だという意識を持っている生徒が大半を占めており，日々の授業で協同的探求学習の実践を積み重ねていることが，生徒にとっての学習に関する意識には直接つながっていないのではないかと思われる。

社会科を得意としている生徒と不得意としている生徒はおよそ半数ずつであり，これはテストにおいて点数がとれるかとれないかということの表れではないかと思われる。

1．世界のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
59.1%	35.8%	0.8%	4.1%

2．日本のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
67.5%	26.6%	1.6%	4.1%

3．社会科は学んでいて楽しい

そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
55.8%	35.0%	3.3%	5.8%

4．社会科は暗記科目だと思う

そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
43.3%	43.3%	6.6%	6.6%

5．社会科は得意だ

そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
16.6%	32.5%	12.5%	38.3%

図1　生徒アンケート

表1　質問項目

項目	質問
意識	・社会科は暗記科目だと思いますか？
授業	・社会科で知識が定着すると思う授業はどんな授業だと思いますか？ ・社会科で考える力(思考力)が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？ ・社会科で判断する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？ ・社会科で表現する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？

調査用紙はそれぞれ 4 件法(意識の項目については「とてもそう思う」,「そう思う」,「あまりそう思わない」,「まったく思わない」, 授業の項目については,「ひたすら説明を聞き, ノートにまとめる授業」「学習課題が提示され, 資料の読み取りやグループ討議などを通して, 課題を解決する授業」「外部機関が作成した体験的教材を使った授業」「調べ学習」から 1 つ選択)で回答させた。

2.　研究の方法

2.1. 対象と質問項目

鳥取大学附属中学校 3 年生の 4 クラス(137 名)を対象とした。有効回答は, 計 120 名(87.59%)であった。2021 年 4 月から継続的に非定型問題の学習を授業に取り入れ, 2022 年 4 月からは, 単元ごとに学習のスタイルを変え,「やりくり」授業の実践を積み重ねた。2022 年 12 月に社会科に対する意識, 授業と知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上に関する質問紙調査を行った。

質問紙調査における質問項目を**表1**に示す。

2.2. 授業実践

3 年生の授業で, 歴史的分野の第 7 章『現代の日本と世界』, 公民的分野の第 3 章『現代の民主政治と社会』2 節「国の政治の仕組み」, 第 4 章『私たちの暮らしと経済』第2節「生産と労働」で「やりくり」授業を行った。

2.3. 「やりくり」授業

「やりくり」授業は, 生徒が自ら問題を解決していく文脈の設定およびそれに伴う既有の知識や技能, 生活経験を駆使した思考活動が必要な学習である。新たな知識をあらかじめ与えてトレースさせたり, 反復練習させたりするような学習ではない。(中尾 2020)そこで, 本研究における授業実践では, 単元構成を独自で設定し,「やりくり」授業を行う時間を設定した。

2.4. 歴史的分野での授業実践

歴史的分野の最後の単元であり, 今までの学習を活かすだけでなく, 現在の日本や世界の課題を取り上げ, 学習課題を設定し, 公民的分野の学習へつながるようにしたり, 自分の考えを表現する場面を多く設定し, 意見交換などを行うことによって, 友だちの意見を取り入れて, 自分の考えを再構築させるなどして, 多面的・多角的な考察を促し, 考察を広げたり, 深めたりしたりすることに重点を置き, 授業実践を行った。歴史的分野での「やりくり」授業の実践を第8時で行った。この単元計画を**表2**に示す。

第 8 時の授業では, 現代の日本のエネルギーの変遷やその背景を読み取ることを通して, 日本のエネルギー問題への解決策やあり方について, 今までの学習を振り返りながら, 多角的に考察し, 自分の考えを表現することをねらいとした。

歴史的分野の最後の単元, 最後の授業であり, 公民的分野の学習につなげることを意識し, 自分

表2 単元構成

第１時	占領下の日本と民主化
第２時	冷戦の開始と植民地の開放
第３時	独立の回復と５５年体制
第４時	緊張緩和と日本外交
第５時	日本の高度経済成長の影響
第６時	冷戦後の国際社会
第７時	変化の中の日本
第８時	持続可能な社会に向けて

の考えをただまとめるだけでなく，各政党が掲げたエネルギー政策から選び，自分の考えをまとめた。第 8 時の授業の大まかな流れを，**表3**に示す。

2022 年に政府から節電要請が出され，エネルギー問題が深刻化しつつある中で，持続可能なエネルギー利用のためにどのようなことが大切か考えた。持続可能なエネルギー利用について考える際に，2022 年 7 月の参議院議員選挙が行われるということもあり，各政党が掲げたエネルギー政策を利用した。この政策の中から選び，最終的にこれからの日本はどのようなことが求められているのかを自分の言葉でまとめさせた。

現在の社会でおきていることを取り上げることで，学習して獲得したことだけでなく，生活経験をもとに考える姿が見られた。また，政党の政策を利用するなどし，歴史的分野の中だけの学習で終わるのではなく，他分野とのつながりや関連を持たせることができた。

表3 第8時の授業の大まかな流れ

学習活動	○発問 ＊留意点など
軍艦島について知る。	＊生徒とのやりとりを通して，確認する。
日本のエネルギー供給割合の変化の背景を確認する。	＊今までの歴史学習を振り返らせたり，世の中のできごとを思い出させたりしながら考えるように示唆する。
現在の日本のエネルギーの課題を確認する。	＊政府の節電要請の新聞記事を提示し，現在の日本の状況をつかませ，電力消費側と電力生産側の視点から考えさせる。
今後のエネルギーの在り方について考える。	○持続可能なエネルギー利用のために，どの政党の公約を支持するか。 ＊選んだ政党とその理由を全体で共有し，最終的にどのようなあり方がよいか、各政党の政策を参考にしながら，自分の言葉でまとめさせる。
本時の学習を振り返る。	○これからの日本にはどのようなことが求められているのだろうか。

2.5. 公民的分野での授業実践

第 3 章『現代の民主政治と社会』2 節「国の政治の仕組み」では，第 210 回国会(臨時会)が開催されている時期と重なったこともあって，国会中継を生徒に視聴させながら，授業を行った。

国会の種類や審議の様子，議院内閣制などについて，教科書に載っていることから学習するのではなく，実社会で起きていることから学ぶことができた。そうすることで生徒の興味・関心を高めることができた。

第 4 章『私たちの暮らしと経済』第 2 節「生産と労働」では，日本証券業協会が作成した『株式会社をつくろう』という体験的教材を活用した授業を行った。この教材では，挑戦状が生徒に向けて出され，それを解決していくというものである。毎時、初めに DVD を視聴し，必要な知識を獲得してから，グループでの話し合いなどを通して，課題を解決していくという流れである。

その時間に必要な知識は，はじめの DVD 視聴で分かり易くする獲得することができるように工夫されていた。知識の定着のためのチェックシートもあり，ただ，体験するだけの授業ではなく，メリハリのついた授業となった。

2.6. 分析の手続き

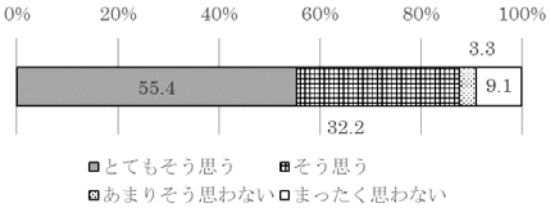
質問紙調査の「社会科は暗記科目だと思いますか？」という質問を 4 月と 12 月で比較する。そして，社会科が暗記科目だと思っている生徒とそうでない生徒にとって，授業のスタイルが知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上に関する意識にどのように影響しているかについて考察した。

3. 結果と考察

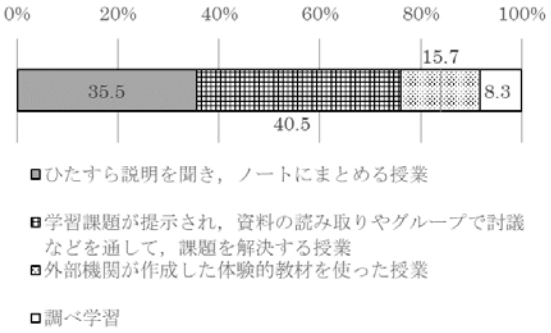
3.1. 質問紙調査の結果

質問紙調査の結果を**図3**に示す。「社会科は暗記科目だと思いますか？」という質問は，4 月に比べて，暗記科目だと思う生徒の割合が，86.6%から 87.6%とわずかに増加している。これは，3 年生

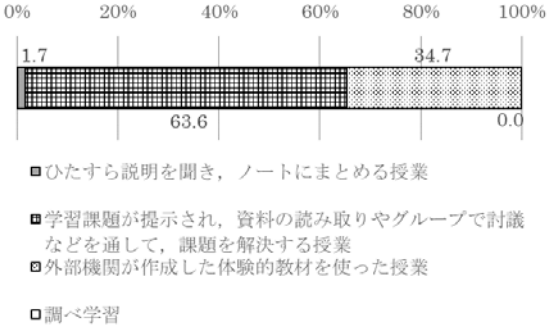
社会科は暗記科目だと思いますか？



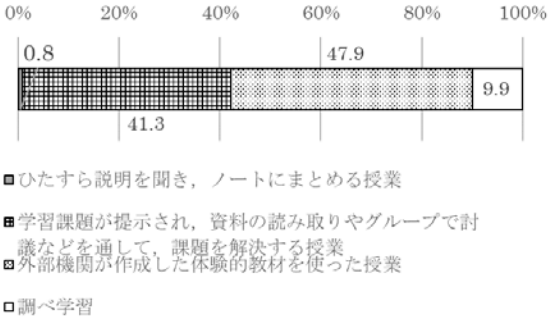
社会科で知識が定着すると思う授業とはどんな授業だと思いますか？



社会科で考える力(思考力)が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？



社会科で判断する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？



社会科で表現する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？

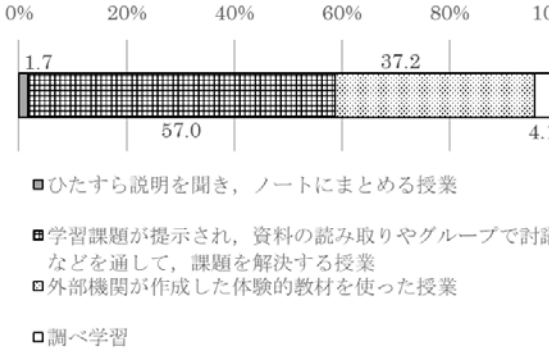


図3　質問紙調査結果

ということもあり，入試に向けたテストが多く実施され，テストでの解答場面で覚えていなかったからできなかったという意識が働いていると思われる。

授業と知識・思考力・判断力・表現力の向上に関する質問(「社会科で知識が定着すると思う授業はどんな授業ですか？」，「社会科で考える力(思考力)が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？」，「社会科で判断する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？」，「社会科で表現する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？」)では，大部分の生徒が「学習課題が提示され，資料の読み取りやグループ討議などを通して，課題を解決する授業」，「外部機機関が作成した体験的教材を使った授業」と回答している。

3.2. 社会科に対する意識と知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上に関する意識の関連性

社会科が暗記科目だと思っている生徒と思っていない生徒が，社会科の授業で，知識・思考力・判断力・表現力の定着・向上する授業はどんな授業だと思うかを**表4**に示した。

なお，質問紙の授業に関する回答の選択肢のひたすら説明を聞き，ノートにまとめる授業を「教え込み授業」，学習課題が提示され，資料の読み取りやグループ討議などを通して，課題を解決する授業を「非定型問題授業」，外部機関が作成した体験的教材を使った授業を「体験的教材活用授業」とする。

表4 暗記科目だと思っている生徒とそうでない生徒の比較

質問	上段：暗記科目だと思う生徒の回答(%) 下段：暗記科目だと思わない生徒の回答(%)			
	教え込み授業	非定型問題授業	体験的教材活用授業	調べ学習
社会科の授業で知識が定着すると思う授業はどんな授業だと思いますか？	38.7	37.3	16.0	7.5
	13.3	60.0	13.3	13.3
社会科の授業で考える力(思考力)が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？	1.9	63.2	34.9	0.0
	0.0	66.7	33.3	0.0
社会科の授業で判断する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？	0.9	39.6	50.9	8.5
	0.0	53.3	26.7	20.0
社会科の授業で表現する力が向上すると思う授業はどんな授業だと思いますか？	1.9	57.5	35.8	4.7
	0.0	53.3	46.7	0.0

知識が定着すると思う授業については，社会科を暗記科目だと思っている生徒は，暗記科目だと思っていない生徒に比べ，教え込み授業の割合が高くなっている。これは，知識は他者から与えられるものという意識が高く，また学習活動を通じて，知識を自ら獲得していくことに苦手意識をもっているのではないだろうか。それに比べ，社会科を暗記科目だと思っていない生徒は，非定型問題授業の割合が半数以上となっている。学習課題を既習事項や他者との討議などを通して解決していく過程で，自らが知識を獲得していくものだととらえているのではないだろうか。調べ学習の割合が暗記科目だと思っている生徒よりも高いことがこのことを裏付けている。

思考力が向上すると思う授業については，社会科を暗記科目だと思っている生徒もそうでない生徒も非定型問題授業の割合が半数以上を占め，体験的教材活用授業を合わせるとほぼすべてになっている。非定型問題授業も体験的教材活用授業のどちらも「やりくり」授業であり，協同的探求学習でもある。学習課題に対して，既習事項を基にしたり，グループでの討議を行ったりしながら，解を導き出すなどの学習が思考力の向上につながっている。

判断力が向上すると思う授業については，社会科を暗記科目だと思っている生徒は，非定型問題授業が半数，社会を暗記科目だと思っていい生徒は，体験的教材活用授業が半数の割合を占めている。また，社会科を暗記科目だと思っていない生徒は調べ学習の割合が 2 割となっている。これは，調べる活動においても何を調べるかだけではなくて，何を使って，どのように調べるかなども自分で判断することも判断力の向上に結び付くと考えているではないだろうか。

表現力が向上すると思う授業については，社会科を暗記科目だと思っている生徒もそうでない生徒も非定型問題授業の割合が半数以上を占め，ついで体験的教材活用授業の割合が高くなっている。非定型問題授業も体験的教材活用授業も授業の中で，自分の考えをまとめ，それをグループ活動で共有・討議したりし，最終的に自分の考えをまとめる場面が設定されている。それにより，他者との関わりなどを通して，自分の考えをまとめる機会が多く，表現することがブラッシュアップされている結果だと思われる。

知識・思考力・判断力・表現力を定着・向上させるためには，質問紙調査の結果からも「やりくり」授業が有効であると言える。

4. まとめと今後の課題

学ぶ力をどのようにつけるか，伸ばしていくかを見極めながら，授業を設定してくことが重要な鍵を握り，「やりくり」授業を仕組んでいくことでさらに効果をあげることがわかった。生徒自身が知識・

思考力・判断力・表現力の定着・向上を実感することで，自己調整力の向上にも影響を与えるものと思われる。つまり，学び力の向上には，「やりくり」授業が欠かせないものになることは間違いないと思う。

正解が 1 つでなかったり，何が正解か分からなかったりする状況が多くある現在の社会の中で，これまで正解とされてきた 1 つの正解だけを求めていては，予測不可能で変化の激しいこれからの社会を生き抜くことが難しくなる。変化に対応し，試行錯誤しながら，よりよい解を求めていく力が必要とされるのではないだろうか。そのために，「やりくり」しながら学習に取り組むことが大事であることは明らかである。このことが今回の質問紙調査の結果からわかったのではないだろうか。

今後は，いかに効果をあげるために「やりくり」授業を組み立てるかということが課題の 1 つにあげられる。「社会科は暗記科目だ」という考えでは，学ぶ力の向上は見込めない。この「社会科は暗記科目だ」という意識が変わるように，さらに日々の授業を積み重ねていく必要があると感じた。

また，今回は学ぶ力の「自己調整力」は扱わなかったが，主体的に学習に取り組む態度に関する研究も進めていくことも今後の課題である。

参考文献

文部科学省(2018)：中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説社会編，東洋館出版社

中尾尊洋(2020)：学ぶ力を育む「やりくり」授業の提案－鳥取大学附属中学校の研究主題について－，鳥取大学附属中学校研究紀要，第 51 号，pp.3-6